

【兵庫県 朝来市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和2年度に策定した「第3期朝来市教育振興基本計画（あさご夢・学びプラン）」に基づき、これまでの教育実践と最先端 ICT 機器のベストミックスによる最大限の教育的効果をめざし、取り組んできた。

その後、令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～において「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な推進が示された。このことは、1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現をめざす学びの姿の一つであることから、令和7年3月に策定する「第4期朝来市教育振興基本計画」にも位置づけ、取り組んでいる。

このような経緯を踏まえ、ICT 機器の適切な活用を通して、児童生徒が主体的に課題に関わり、自分の考えを伝えるときともに、他者の考えを理解し、周囲と協働して課題を解決していくような学びの姿をめざしていく。

2. GIGA 第1期の総括

(1) 端末等の整備

令和元年度及び令和2年度に、市内全小中学校に1人1台端末の導入を行った。さらに全教室に導入した大型提示装置や教員用端末の整備も合わせて、学習の ICT 環境は飛躍的に充実した。

(2) ネットワーク環境の整備

1人1台端末導入時に、各校で普通教室をはじめ、特別教室や体育館等は無線 LAN を設置し、高速大容量通信ネットワーク環境を整備した。令和6年度に行われた全国学力・学習状況調査等のオンラインによる調査でも、滞りなく実施することができた。

(5) 学習における活用

学習 e ポータルや AI ドリル教材等を導入し、定期的に研修会を開催するなどして積極的な活用を呼びかけてきた。AI 機能が搭載されたドリル教材は、児童生徒一人ひとりの学力に合わせて出題されるため、個別最適化された学びの実現につながっている。

1人1台端末の導入により、児童生徒の学び方が多様化していることを踏まえ、今後は探究的な学びの充実をめざし、授業の在り方を検討する必要がある。

(5) ICT 機器の管理や授業支援ができる環境の整備

GIGA スクール運営支援センターを設置し、委託事業者による ICT 機器の管理（修理対応やメンテナンス等）に一元化したことにより、端末が故障した時の対応や個人アカウントの年次更新等がスムーズに行えた。また、ICT 支援員の学校への派遣も行っており、学校現場で ICT 機器等を使った授業支援をすることで、教職員の ICT 機器等の活用スキルの向上につながった。

3. 1人1台端末の利活用方策

「第4期朝来市教育振興基本計画」に基づいて一人一台端末の利活用を図るとともに、GIGA スクール構想第2期で導入する端末や ICT 機器の環境を踏まえ、さらなる利活用を図っていく。

(1) 「これまでの教育実践と ICT 機器とのベストミックス」をめざした授業実践

これまで教職員が授業において積極的に ICT 機器を活用してきた実績を基に、もう一度書籍やノートを使った学習について見直し、それぞれの良さを捉えなおすことで、めざす資質・能力の育成に向けた適切な学習方法を選択できるようにしていく。

(2) 1人1台端末の積極的な活用

「これまでの教育実践と ICT 機器とのベストミックス」を推進していくにあたり、研修会や情報教育担当者会議等で実践事例を共有するとともに、効果的な活用方法について知見を深めていくことで、授業において、児童生徒が ICT 機器を活用できる機会を充実させていく。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びの充実

個別最適化された AI ドリル教材や AI 英会話アプリの活用等、児童生徒一人ひとりの理解度に応じた学習環境、授業づくりを推進していく。また、児童生徒が学び合いを通してお互いを認め合う態度を育めるよう、意見の共有や共同編集の作業等を支援する授業支援システムを使用した協働的な授業を適切に取り入れていく。

(4) 不登校児童生徒等への学びの保障

本人や保護者の意向等を考慮しながら、家庭やサポートルーム等と教室をつないだオンラインによる授業や教育相談を行える体制を引き続き整備していく。

以上の方策を中心に児童生徒の「学びに向かう力」、「多様な他者と協働する社会性」を育むことで、朝来市が掲げる目標像「ふるさと朝来で学ぶ 未来を創る人づくり」の実現をめざしていく。